

細分課題 12

遺伝性障害に関する資料の相互利用に関する研究

12・1 先天性代謝異常症に関する資料の整備

大阪市小児保健センター

大 浦 敏 明

日本大学医学部

北 川 照 男

神戸大学理学部

川 辺 昌 太

大阪市立大学医学部

一 色 玄

研究目的および研究成果

先天性代謝異常症の調査としては、昭和43年小児代謝研究会が行った全国調査が最大のものであるが、個人名が記載されてあるので公表することができなかった。そこで本年は識別に必要以外の姓名の伏字作業を行ない、これを遺伝相談ネットワークに利用できるよう提供した。

考 察

その後の新しい症例に関しては、疾患名と症例数に関して、昭和49年に鳥取大脳神経小児科有馬教授の行った調査があるので、それが参考となる。現時点では、昭和43年の調査のように、個人名を調査することは不適當と考える。

発 表 論 文

大浦敏明。(1975)。遺伝相談と保因者の検索。現代小児科大系、年刊追補 75-a, 中山書店。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的および研究成果

先天性代謝異常症の調査としては、昭和43年小児代謝研究会が行った全国調査が最大のものであるが、個人名が記載されてあるので公表することができなかった。そこで本年は識別に必要以外の姓名の伏字作業を行ない、これを遺伝相談ネットワークに利用できるよう提供した。